

アーティスト紹介

パルコキノシタ (Parco Kinoshita)

©1965年、徳島県生まれ。1989年、小学校の教員をしていた頃、「日本グラフィック展」パルコ賞受賞をきっかけに、このような呼び名になる。90年代、中高の美術教師を経てイラストレーターに転向、『月刊漫画ガロ』で漫画家デビュー「漂流教師」が単行本化される。子供向けワークショップやパフォーマンスを行い広場を中心に活動をしているという由来で別名「公園の木の下」とも呼ばれる。現代美術グループ「昭和40年会」のメンバーになって以降、活動が海外へ。アジアや欧州での展覧会多数。単独でのゲリラパフォーマンスで国際大規模展に数多く参加する。2011年、震災以降は被災地や仮設住宅でのアートを生かしたコミュニティの再生に奔走し、復興支援活動を現在も継続している。2017年、石巻市での現代アートの祭典「リボンアートフェスティバル」をきっかけに宮城県に移住。現在は石巻で「日和坂アート研究舎」を主宰して展覧会を企画しアートによる復興を目指している、故郷徳島では毎年徳島城博物館で「芸術ハカセは見た！」展を企画して地域での現代アート支援をしている。専門は絵画だが牡鹿半島を拠点に木彫を始める。スマトラ沖地震最大の被災地バンダ・アチェでもアート支援活動をしている。



ひな人形で住民笑顔

徳島市出身アーティスト
パルコキノシタさんと宮城で活動

出来上がったひな人形を前に住民と踊るパルコキノシタさん。宮城、城崎女川町

宮城出身のアナイト・パルコキノシタさん(50)は、本郷宮崎女川町の町民祭で住民が集まる会場で、ひな人形を作るワークショップを開いた。妻日本大(20)から年を前に、集まった住民がさやかに喜びを満した。

ひな人形は、プラスチックの板を削り立てた後紙を貼り、その上に顔を描き、ビーズ球を嵌らせて作る。高齢者や子どもも参加する。

宮城出身のアナイト・パルコキノシタさん(50)は、本郷宮崎女川町の町民祭で住民が集まる会場で、ひな人形を作るワークショップを開いた。妻日本大(20)から年を前に、集まった住民がさやかに喜びを満した。

ひな人形は、プラスチックの板を削り立てた後紙を貼り、その上に顔を描き、ビーズ球を嵌らせて作る。高齢者や子どもも参加する。

宮城出身のアナイト・パルコキノシタさん(50)は、本郷宮崎女川町の町民祭で住民が集まる会場で、ひな人形を作るワークショップを開いた。妻日本大(20)から年を前に、集まった住民がさやかに喜びを満した。

アート制作で支援続ける

に教わりながら、好き2011年秋から宮城に紙を貼り付けた。お嬢さんまでが喜び、ピンポン球を家門をめた。地元のアーティストの思いを込めた、お嬢さんの住居のひな人形を作った。

宮城出身のアナイト・パルコキノシタさん(50)は、本郷宮崎女川町の町民祭で住民が集まる会場で、ひな人形を作るワークショップを開いた。妻日本大(20)から年を前に、集まった住民がさやかに喜びを満した。

ひな人形は、プラスチックの板を削り立てた後紙を貼り、その上に顔を描き、ビーズ球を嵌らせて作る。高齢者や子どもも参加する。

宮城出身のアナイト・パルコキノシタさん(50)は、本郷宮崎女川町の町民祭で住民が集まる会場で、ひな人形を作るワークショップを開いた。妻日本大(20)から年を前に、集まった住民がさやかに喜びを満した。